

『総訳亜細亜言語集』(明治13~15年刊)における人称代名詞 —中国語と対応する日本語の表記を中心に—

園田博文

地域教育文化学部 地域教育文化学科

(平成29年10月2日)

要 旨

中国語会話書である『総訳亜細亜言語集』を資料とし、一・二人称代名詞およびこれに準じる語について、中国語と日本語とを対照した。日本語訳文では、漢字と仮名による様々な表記が見られるため、表記を重視する方法で調査し分析した。中国語に基づき、一人称代名詞Ⅰ(単数)、一人称代名詞Ⅱ(複数)、二人称代名詞Ⅰ(単数)、二人称代名詞Ⅱ(複数)の4通りに分けて考察した。その結果、読み方が確実に分らない「私」「汝」等の語が多数存在することが分かった。

このほか、一人称代名詞Ⅱ(複数)、二人称代名詞Ⅱ(複数)については、ひとまず中国語に基づいて「複数」としたが、日本語では一部単数が対応しているものがある。これを詳細に見ると、「家、店、家族」を表す場合であることが分かった。これは、中国語では複数形が自然であり、日本語では単数形が自然であるためと考えられる。

中国語があり、それに対応する日本語がない場合を見ると、一人称代名詞Ⅰ(単数)の中国語「教我」を「稽古(ケイコ)」とする例や、二人称代名詞Ⅰ(単数)の中国語「託您」を「御願(オネガヒ)モウス」と全体で訳す例が見られた。中国語「託您」に関しては、他の資料でも多数対応しない例が見られる。

日本語訳文に人称代名詞が現れるにもかかわらず中国語に対応する例がない場合も、一人称代名詞Ⅰ(単数)、二人称代名詞Ⅰ(単数)に見られた。この場合、中国語で2回繰り返されるものが日本語で3回繰り返され、あるいは、中国語の一つしかないものが、日本語で二つになるというものであった。ある意味でこのような対応をしているともいえる。

このように、対応しない少数例の分析から、日中対照研究につながる例が浮かび上がってきた。

1 はじめに

中国語会話書である『総訳亜細亜言語集』(明治13年~15年刊)の一・二人称代名詞およびこれに準じる語について、中国語と日本語とを対照した。

『総訳亜細亜言語集』(以下適宜『総訳』と略記する)については、園田(1997)で資料の分析を行い、文末表現について考察している。その後、助動詞「です」の多用について、園田(1998a)で論じた。中国語会話書の人称代名詞については、小松(2007)、近藤(2013)等の先行研究も踏まえながら、園田(2016)、園田(2017a)、園田(2017c)で触れた。

『東語士商叢談便覧』（明治38年刊）では、「汝（アナタ）」¹「汝（オマヘ）」「貴下（アナタ）」等総ルビで、日本語訳文の読みが100%確定している（園田 2017c）。一方、『官話指南総訳』（明治38年刊）では、「汝（アナタ）」「貴兄（アナタ）」「老兄（アナタ）」「兄台（アナタ）」のように振仮名が振られた例もあるが、「私」「汝」のように振られていない例も多く、読みを確定できない場合がある（園田 2016）。さらに、『官話急就篇総訳』（大正5年刊）では、「例言」で你と您に触れ、你は「オマイ」や「キミ」、您是「アナタ」に相当するが、場合によって様々な訳が相応しいため、訳語を使用せず、注も付けずに、中国語をそのまま用いたと述べている（園田 2017a）。実際に以下に挙げる例のように読みを読者に委ねている。

- ① 你ハ何ヲ見テイマス（官話急就篇「你看甚麼」、36、官話急就篇総訳）
- ② 您、オ勞レデシタカ（官話急就篇「您乏了麼」、70、官話急就篇総訳）

これら、明治後期以降の中国語会話書に影響を与えているであろう『総訳』を調べることは重要である。『総訳』もまた江戸時代以来の表記の伝統や同時代の小説の表記法から影響を受けていると考えられる。江戸時代や明治期の表記の実態についての先行研究は多数ある。園田（2006）では、江戸時代における式亭三馬の洒落本の振仮名を調べ、「三個（さんになん）」「両三個（にさんくみ）」「俳優（やくしや）」等多彩な例が見られることを指摘した。これらは江戸時代当時から珍しいものではなく、この伝統は、明治以降の小説にも受け継がれる。

明治時代の漢字の読み方はかなり自由であり、漱石の小説なども実際は「声に出して読めない」ものであり、緩やかでなくなった現代の常識で読んではいけな。とにかく、当時の漢字表記と振仮名をその表記のまま見て、考察する必要がある。

2 『総訳亜細亜言語集』について

慶応3（1867）年、北京駐在英國公使館書記官トーマス・ウェード（イギリス人）により『語言自邇集』²（初版）が刊行された。この『語言自邇集』（初版）をもとにして、広部精³により、明治12（1879）年から明治13（1880）年にかけて『亜細亜言語集』が編まれた。『亜細亜言語集』は七巻七冊で、以下のような構成である。

- 巻一・明治12（1879）年6月刊、散語、散語摘訳、六字話、欧州奇話
- 巻二・明治13（1880）年2月刊、続散語、常言、欧州奇話
- 巻三・明治13（1880）年3月刊、問答、欧州奇話

¹ 本稿では当該例のように漢字表記の後の括弧の中に振仮名を記した。「漢字表記（振仮名）」となる。

² 『語言自邇集』は、慶応3（1867）年に初版が刊行された後、明治19（1886）年に再版が、明治36（1903）年に三版が刊行される。初版、再版、三版と構成は大きく変わっており、それぞれの版が日本の中国語会話書に与える影響も大きかった。『総訳亜細亜言語集』（初版）の刊行は、明治15（1882）年2月で完結しているため、本稿では、『語言自邇集』の再版や三版からの影響は考慮しなくてよいことになる。内田・氷野・宋（2015）によると、『亜細亜言語集』や『総訳亜細亜言語集』の一部（特に談論篇）は『問答篇』（1860年刊、トーマス・ウェード著）を底本として編んだとの指摘がある。『問答篇』については、稿を改めて論じる予定である。

³ 千葉の士族出身。数えの18歳まで千葉で過ごした後、東京に移り住み、これより7年後の25歳のときに『亜細亜言語集』を著すことになる（園田 1997）。

巻四・明治13（1880）年5月刊、談論、欧州奇話、続常言

巻五・明治13（1880）年5月刊、続談論、続常言

巻六・明治13（1880）年8月刊、例言、平仄編

巻七・明治13（1880）年8月刊、言語例略、続常言

このうち、巻一から巻四の『語言自邇集』に関する部分⁴を訳出し、中国語の原文と日本語の訳文を併記したものが『総訳』である。実際の調査に使用したのは、国立国会図書館蔵本（初版本）である。

『総訳』（全四巻）の詳細を以下に示す。

- (1) 巻一上下（丁付けも上下で分かれているため、挙例に当たっては上下を記す）
散語、明治13（1880）年4月刊
- (2) 巻二上（上のみであるため、挙例に当たっては上の表記は省いた）
続散語、明治13（1880）年5月刊
- (3) 巻三上下（丁付けは上下通しになっているので、挙例に当たり上下は省いた）
問答、明治13（1880）年8月刊
- (4) 巻四上下（丁付けも上下で分かれているため、挙例に当たっては上下を記す）
談論、明治15（1882）年2月刊

3 一・二人称代名詞

すでに触れたように、確実な表記を手がかりに、読みを推定できるようにした。

中国語をもととし、その日本語訳を示した。下記のように四つに分類し、表も作り分析を加える。振仮名が明確に分かるように「漢字表記（振仮名）」のように示した。

- (1) 一人称代名詞Ⅰ
中国語の一人称単数とそれに対応する日本語である。
- (2) 一人称代名詞Ⅱ
中国語の一人称複数（一・二人称代名詞といえるものを含む）とそれに対応する日本語である。日本語では、一人称単数が対応する例もある。
- (3) 二人称代名詞Ⅰ
中国語の二人称単数とそれに対応する日本語である。
- (4) 二人称代名詞Ⅱ
中国語の二人称複数とそれに対応する日本語である。日本語では、二人称単数が対応する例もある。

3.1 一人称代名詞Ⅰ

【表1】に一人称代名詞Ⅰを示した。中国語「我」、「小的」（謙称）、「敝」（謙称）、「賤」（謙称）全例とこれに対応する日本語の表記を示した。このほか、中国語「兄弟⁵」（謙称）が日本語の人称代名詞に対応した例があったので、「（兄弟）」として対応例のみを示した。中国語に対応例がなく、日本語にのみ「私」という表記が現れた1例も加えた。

⁴ 六字話、欧州奇話、常言、続常言を除いたものである。

【表1】『総垂』の一人称代名詞I（中国語「我」等との対応）

中国語	日本語	卷一	卷二	卷三	卷四	合計
我	我（オレ）			8	2	10
	私	111	72	156	207	546
	私（オレ）	1		2		3
	私（ワタシ）			1		1
	私（ワタク）シ	1				1
	ワタクシ			1		1
	《対応なし》	1			4	5
小的	小的（ワタシ）			1		1
	私			21		21
敵	ワタクシ			1		1
賤	私			1		1
（兄弟）	兄弟（ワタクシ）				1	1
	私				1	1
《対応なし》	私				1	1

3. 1. 1 中国語「我」と対応する語

【表1】のとおり、読みが確実に分かるものは「我（オレ）」10例、「私（オレ）」3例、「私（ワタシ）」1例、「私（ワタク）シ」1例、「ワタクシ」1例であった。一方、読みが確実に分らない「私」という表記が546例現れていた。読みは確実に分らないのだが、「私」という表記があるということは、何らかの日本語が対応すると考えるのが自然である。何も対応しないのに書いてみたということは考えにくい。【表1】に挙がっているような日本語の一人称代名詞が対応している可能性は極めて高い。さらに「私」が「ワタシ」なのか「ワタクシ」なのか「オレ」なのかは、待遇表現による手がかりや規則性の発見⁶等により推定するしかなく、100%確実にというところまではいかない。むしろこのような状況が当時の表記の常識であるともいえる。

このような中で、中国語「我」に日本語の対応例がないものが5例見られた。

- ③ 我請過先生教我他不肯来 私ハ先生ニ御願（ヲネガヒ）モウシテ稽古（ケイコ）イタソウトシマシタガ。アノ人ハ来テ呉（クレ）マセン（卷一、上6ウ）

これは、広部の注にもあるのだが、「教我」が「稽古（ケイコ）」に対応しているため、「我」単独での対応がない。

- ④ 給我編幾個話条子我念、兄弟若能彀成人了 私ニ幾個（イクツ）カ話ノ本（ホン）ヲ編（コシラ）ヘテ読（ヨマ）セテクダサレ、兄弟（ワタクシ）ガ若シ人ニナルコ

⁵ 同輩に対して自分を謙遜するというときの言い方で、友人または聴衆に対する一人称代名詞。現在の中国語「兄弟」は、xiōngdìと発音される場合は、「兄弟」を表す。一方、xiōngdìとdì（弟）を轻声で発音する場合は、「兄」と「弟」という漢字のうち、後者の意味が全体に拡大され、「弟」という意味になる。さらに、自分より年下の男子に呼びかける二人称代名詞（「君」）としての用法へも派生する。当該例の一人称代名詞（謙称）としての用法もこの後者（「弟」の派生）の意味と関連が深い。

⁶ たとえば中国語「兄弟」に対応する日本語を見ると、初出の場合のみ「兄弟（ワタクシ）」であり、2例目は「私」である。この場合、2例目の「私」も「ワタクシ」と読んでいいものか、規則性とも考えられるが確証は得られない。

トガ出来レバ（巻四、上1ウ）

- ⑤ 我知道了（巻四、上13ウ）
- ⑥ 後來我在朋友們跟前打聽 後（アト）デ友達ノ前（マヘ）デ訊問（タヅネ）マシタ
ラバ（巻四、上21オ）
- ⑦ 而且我家生子兒 ソーシテマタ是（コレ）ハ家（ウチ）デ生レタ子（コ）ダカラ
（巻四、下18ウ）

3. 1. 2 中国語「小的」「敝」「賤」「兄弟」と対応する語

巻三のみであるが、中国語「小的」（謙称）を日本語で「小的（ワタシ）」としたものが1例、「私」としたものが21例現れている。初出の1例のみ「小的（ワタシ）」で、その後はすべて「私」である。

- ⑧ 小的叫来福 小的（ワタシ）ハ来福（ライフク）ト叫（モウ）スモノデス（巻三、5ウ）
- ⑨ 老爺就可以雇小的、好不好 旦那サマ直（ス）グ私ヲ雇（ヤトヒ）ナサイ、宜敷（ヨロシク）ゴザリマスカ（巻三、39オ）

同じく、巻三のみであるが、中国語「敝」が「ワタクシ」、中国語「賤」が「私」に対応している。

- ⑩ 您貴処是那兒 アナタノ御処（オトコロ）ハ、ドチラデゴザリマスカ 敝処是天津、没領教 ワタクシノ処（トコロ）ハ、天津（テンシン）デス、マダ、承（ウケタ）マハリマセン（巻三、1オ）
- ⑪ 先生貴姓 先生ノ御苗字（ゴメウジ）ハ 賤姓蘇 私ノ苗字ハ蘇（ソ）デゴザル（巻三、39ウ）

中国語「敝」「賤」（ともに謙称）に対応する語が中国語「貴」であるが、『総訳』ではこれに日本語の二人称代名詞に対応させた例は見られなかった。上記⑩の「貴処」は「御処（オトコロ）ハ」であり、⑪の「貴姓」も「御苗字（ゴメウジ）ハ」となっている。ただし、『急就篇総訳』（宮島大八著訳、昭和9年刊）では、以下に挙げるように、「貴」と日本語の二人称代名詞が対応した例もある。

- ⑫ 貴方の学校は何年で卒業しますか（急就篇「貴学校は幾年卒業」、散語第七、131頁。急就篇総訳、散語第七、151頁）

巻四で、「兄弟」を「兄弟（ワタクシ）」「私」とした例が1例ずつ見られた。

- ⑬ 兄弟若能彀成人了 兄弟（ワタクシ）ガ若シ人ニナルコトガ出来レバ（巻四、上1ウ）
- ⑭ 兄弟永遠記着就是咯 私ハイツマデモ記着（オボヘ）テ居レバ、ソレデヨイノデス（巻四、下7オ）

3. 1. 3 中国語に対応する例がない場合

巻四に中国語の方に対応する例が見当たらないものが1例見られた。

- ⑮ 叫我～、叫我～、還是壳了房子喫呢 私ニ～、私ニ～、私ニ房子（イヘ）ヲ売テ食ヘト云フノカ（巻四、下4ウ）

これは、中国語では2回繰り返されている「叫我」を日本語で3回繰り返して訳したよ

うである。

3. 2 一人称代名詞Ⅱ

【表2】に一人称代名詞Ⅱを示した。中国語「我們」、咱們、俺們、咱們全例とこれに対応する日本語の表記を示した。

【表2】『総糸』の一人称代名詞Ⅱ（中国語「我們」「咱們」等との対応）

中国語	日本語	卷一	卷二	卷三	卷四	合計
我們	我們（オレラ）			1		1
	私		1			1
	私共	21	3	38	26	88
	私共（ワタシ）	1				1
	私共（ワタクシドモ）	1				1
咱們	御互（オタガヒ）			1		1
俺們	私共御互（ヲタガ）ヒ		1			1
	私共（ヲタガイ）		1			1
	御互		1			1
	御互ヒ	7	1			8
	御互（オタガ）ヒ	1		2		3
	御互（オタガヒ）			2		2
	御互共				1	1
咱們	御互				5	5
	御互ヒ				1	1
	御互共				11	11
	御互ドモ				1	1

3. 2. 1 中国語「我們」と対応する語

【表2】のとおり、中国語「我們」が日本語の一人称複数に対応するものとして、読みが確実に分かるものは「我們（オレラ）」1例、「私共（ワタクシドモ）」1例である。読みが確定しないものとしては、「私共」88例がある。中国語「我們」が日本語の一人称単数に対応するものとして、読みが確実に分かるものは「私共（ワタシ）」1例である。読みが確定しないものとしては、「私」1例がある。

- ⑩ 我們底根兒有那些錢 私共（ワタシ）モ以前ハ那些（チツト）ハ錢ガ有リマシタガ（卷一、下5オ）

中国語「我們」と同じような表記として「私共」と記した上で、実際の読みである「ワタシ」を振ったか。「私の家」「私の家族」が想定されているようで、中国語では複数形「我們」を使うのが自然で、日本語としては単数の方が自然だったのであろう。

- ⑪ 他舖子在我們舖子隔壁兒 彼レノ見世（ミセ）ハ私ノ見世ノ壁隣（カベドナリ）デス（卷二、6オ）

これは明らかに店の場合である。

3. 2. 2 中国語「咱們」「俺們」「咱們」と対応する語

咱們、俺們、咱們はいずれも同じである。中国語の咱們は、話し手のほかに聞き手も含

み「他們」と対比される人称代名詞なので、一・二人称兼用代名詞といえる。これに対し、我們は、話し手のみで聞き手を含まず「你們」と対比できる人称代名詞であるので、一人称代名詞であるといえる。中国語の方言によってはこの区別が曖昧である場合もあるが、特に北方系の北京官話では区別する傾向が顕著である。日本語にはこのような区別はないが、我們が「ワタシドモ」、咱們が「オタガイ」「オタガイドモ」と訳される場合が多い。聞き手も含めて「ワタシドモ」とは言いにくいようである。ただし、以下のような例がある。

- ⑱ 僂們頂好、是幹甚麼呢 私共（ヲタガイ）ニ極（ゴク）好ヒノハ何ヲ扱フノカ（巻二、5ウ）

これは、「私共」という漢字表記に「ヲタガイ」と振仮名を振ったものである。読み方は「ヲタガイ」であるわけだが、漢字表記が特徴的である。さらに、「私共（ヲタガイ）ニ」という副詞的な用法である。

- ⑲ 僂們要往舟山、灣一灣船 私共御互（ヲタガ）ヒハ舟山（シウサン）エ往テ舟ヲ留（トメ）ヤウト存ジマス（巻二、12ウ）

この例の場合、「私共」には振仮名が振っていないので「ヲタガヒヲタガヒ」というのも不自然なので、「ワタシドモヲタガヒ」のように読むのではないかと推測する。もしそうだとすると、単独ではないものの、咱們の訳に「ワタシドモ」が使われた唯一の例となる。

3. 3 二人称代名詞 I

【表3】に二人称代名詞 I を示した。中国語「你」、「你納」、「您」（敬称）、「您納」（敬称）「尊駕」（敬称）、「閣下」（敬称）全例とこれに対応する日本語の表記を示した。このほか、中国語「老弟」が日本語の人称代名詞に対応した例があったので、「（老弟）」として対応例のみを示した。中国語に対応例がなく、日本語にのみ「汝」という表記が現れた1例も加えた。

3. 3. 1 中国語「你」と対応する語

【表3】のとおり、中国語「你」が日本語の二人称単数に対応するものとして、読みが確実に分かるものは「你（オマヘ）」52例、「你（ヲマヘ）」1例、「汝（ナンヂ）」1例、「汝（オマヘ）」12例、「汝（オマ）ヘ」1例、「汝（ヲマエ）」2例、「汝（ヲマエ）」1例、「汝（ヲマヘ）」8例、「御前（オマヘ）」1例、「オマエ」2例、「オマヘ」29例、「ヲマヘ」1例、「オマヘサン」1例、「アナタ」2例、その他（「你（ヒト）」）1例である。これに加えて、「汝ヂ」と表記したものが3例あり、「ナンヂ」と考えてよさそうである。読みが確定しないものとしては、「你」108例、「汝」139例がある。

- ⑳ 真是你疑惑作甚麼 本当（ホンタウ）ニ左様（サウ）ダヨ、你（オマヘ）ハ何（ナン）デ疑（ウタガ）フノカ（巻三、30オ）

3. 3. 2 中国語「你納」「您」「您納」と対応する語

「你納」のように你や您の後に「納」を付けて呼ぶ二人称代名詞はこの時期の特徴的な用法で、現在ではほとんど使われていない。この、中国語「你納」が日本語の二人称単数に対応するものとして、読みが確実に分かるものは「你納（アナタ）」9例、「您（アナタ）」

6例、「貴下（アナタ）」1例、「アナタ」21例である。一方、読みが確定しないものとして

【表3】『総亜』の二人称代名詞Ⅰ（中国語「你」「您」等との対応）

中国語	日本語	巻一	巻二	巻三	巻四	合計	
你	你		2	14	92	108	
	你（オマヘ）	2		44	6	52	
	你（ヲマヘ）	1				1	
	汝	54	50	35		139	
	汝ヂ	1	1	1		3	
	汝（ナンヂ）	1				1	
	汝（オマヘ）	3		9		12	
	汝（オマ）ヘ			1		1	
	汝（ヲマエ）		2			2	
	汝（ヲマエ）		1			1	
	汝（ヲマヘ）	7	1			8	
	御前（オマヘ）				1		1
	オマエ				2		2
	オマヘ				9	20	29
	ヲマヘ					1	1
	オマヘサン					1	1
	アナタ					2	2
你（ヒト）					1	1	
你納	你納（アナタ）			6	3	9	
	您				5	5	
	您（アナタ）			2	4	6	
	貴下（アナタ）				1	1	
	アナタ		1	6	14	21	
您	您	5				5	
	您（アナタ）	5		6		11	
	アナタ	2		6		8	
	《対応なし》	1				1	
您納	アナタ			3		3	
尊駕	尊駕（アナタ）			1		1	
閣下	閣下（アナタ）			7		7	
	アナタ			3		3	
（老弟）	老弟（アナタ）	1			2	3	
《対応なし》	汝	1				1	

は、「您」5例がある。ただ、日本語で「您」と記されていれば、敬称であることが分かり、「オマエ」や「ナンヂ」ではなく「アナタ」と読まれた可能性が高い。ともかく、中国語「你」の場合に比べて、確実に読める場合の比率が高い。

② 買的意思你納倒不用打聽 買フタ訳（ワケ）ハ你納（アナタ）ソレハ御問（オタツネ）ナサルニ及ビマセン（巻三、28オ）

中国語「您」（敬称）が日本語の二人称単数に対応するものとして、読みが確実に分かるものは「您（アナタ）」11例、「アナタ」8例である。一方、読みが確定しないものとしては、「您」5例がある。ただ、日本語で「您」と記されていれば、敬称であることが分か

り、「オマエ」や「ナンヂ」ではなく「アナタ」と読まれた可能性が高いことは中国語「你納」の場合と同じである。中国語「你」の場合に比べて、中国語「你納」と同じく確実に読める場合の比率が高い。

中国語に「您」が見られ、日本語に対応する例が見られないものが1例あった。

㊸ 託您 御願（オネガヒ）モウス（巻一、下18ウ）

このような中国語「託您」の場合、日本語に二人称代名詞が現れない例は他の中国語会話書にも多数現れている。

中国語「您納」（敬称）は3例とも全て「アナタ」と記されている。

3. 3. 3 中国語「尊駕」「閣下」「老弟」と対応する語

中国語「尊駕」（敬称）は「尊駕（アナタ）」が1例見られた。中国語「閣下」（敬称）は、「閣下（アナタ）」が7例、「アナタ」が3例であった。

このほか、日本語で「老弟（アナタ）」という例が3例現れており、これに対応する中国語は「老弟」であった。

3. 3. 4 中国語に対応する例がない場合

中国語に対応する例がないものとして「汝」が1例現れていた。

㊹ 這個事情得你各自各兒去 此ノ事柄（コトガラ）ハ汝ハ汝デ往（イツ）テセネバナラヌ（巻一、上11ウ）

中国語では「你」1例であるが日本語に訳すときに「汝ハ汝デ」というように2例になったものである。

3. 4 二人称代名詞Ⅱ

【表4】に二人称代名詞Ⅱを示した。中国語「你們」に対応する例である。

【表4】『総訳』の二人称代名詞Ⅱ（中国語「你們」との対応）

中国語	日本語	巻一	巻二	巻三	巻四	合計	
你們	你			1		1	
	你方（オマヘカタ）			1		1	
	你方（ヲマヘカタ）	3				3	
	你共				15	15	
	你共（オマヘドモ）				2	2	
	你共（オマヘラ）			1		1	
	你等				2	2	
	你等（オマヘタチ）				1	1	
	你達				1	1	
	汝		1				1
	汝共		4				4
	汝等（オマヘタチ）					1	1
	手前（マヘ）達					1	1
	オマエタチ				1		1
	オマヘタチ				1	2	3
	《その他》		1				1

【表4】のとおり、中国語「你們」が日本語の二人称複数に対応するものとして、読みが確実に分かるものは「你方（オマヘカタ）」1例、「你方（ヲマヘカタ）」3例、「你共（オマヘドモ）」2例、「你共（オマヘラ）」1例、「你等（オマヘタチ）」1例、「汝等（オマヘタチ）」1例、「手前（マヘ）達」1例、「オマエタチ」1例、「オマヘタチ」3例である。読みが確定しないものとしては、「你共」15例、「你等」2例、「你達」1例、「汝共」4例がある。中国語「你們」が日本語の二人称単数に対応するものとして、読みが確実に分かるものではなく、読みが確定しないものとしては、「你」1例、「汝」1例がある。《その他》としたものは「彼共（カレドモ）」という例であるが、誤植の可能性もある。

- ②4 你們行裏、離不開你、不容你去 你ノ店ノ内デ、你ヲ離（ハナ）スコトハ出来（デキ）マイカラ、你ヲ遣（ヤリ）マスマイ（巻三、39オ）
- ②5 你們的屋裏有席没有 汝ノ御家（ヲウチ）ニ簀（ゴザ）ハ有リマスカ（巻一、上8ウ）

いずれも店や家の場合である。「誰々の店」「誰々のうち」という場合は、中国語では複数形で、日本語では単数形で表すのが自然であるようだ。

4 まとめと今後の課題

以上、中国語会話書である『総訳亜細亜言語集』を資料とし、一・二人称代名詞およびこれに準じる語について、中国語と日本語とを対照した。一人称代名詞Ⅰ（単数）、一人称代名詞Ⅱ（複数）、二人称代名詞Ⅰ（単数）、二人称代名詞Ⅱ（複数）の4通りに分けて見てきた。

たとえば、一人称代名詞Ⅰの中国語「我」に対応する日本語の場合を考えてみる。読みは確実に分らないのだが、「私」という表記があるということは、何らかの日本語が対応すると考えるのが自然である。何も対応しないのに書いてみたということは考えにくい。日本語の一人称代名詞が対応している可能性は極めて高い。さらに「私」が「ワタシ」なのか「ワタクシ」なのか「オレ」なのかは、待遇表現による手がかりや規則性の発見等により推定するしかなく、100%確実にというところまではいかない。むしろこのような状況が当時の表記の常識であるともいえる。

一人称代名詞Ⅱ（複数）、二人称代名詞Ⅱ（複数）については、ひとまず中国語に基づいて「複数」としたが、日本語では一部単数が対応しているものがある。これを詳細に見ると、「家、店、家族」を表す場合であることが分かった。これは、中国語では複数形が自然であり、日本語では単数形が自然であるためと考えられる。

中国語があり、それに対応する日本語がない場合を見ると、一人称代名詞Ⅰ（単数）の中国語「教我」を「稽古（ケイコ）」とする例や、二人称代名詞Ⅰ（単数）の中国語「託您」を「御願（オネガヒ）モウス」と全体で訳す例が見られた。中国語「託您」に関しては、他の資料でも多数対応しない例が見られる。

日本語訳文に人称代名詞が現れるにもかかわらず中国語に対応する例がない場合も、一人称代名詞Ⅰ（単数）、二人称代名詞Ⅰ（単数）に見られた。この場合、中国語で2回繰り返されるものが日本語で3回繰り返され、あるいは、中国語に一つしかないものが、日本語で二つになるというものであった。ある意味でこのような対応をしているともいえる。

対応しない少数例の分析から、日中対照研究につながる例が浮かび上がってきたことから、今後は、より多くの資料での対応関係を調査し、考察を深めていきたい。

【参考文献】

- 内田慶市・氷野歩・宋桔（2015）『語言自邇集の研究』好文出版
- 内田慶市・氷野善寛（2016）『官話指南の書誌的研究』好文出版
- 金子 弘（2000）「幕末・明治期洋学資料の例文の文体—人称代名詞の使用率と直訳度—」『語から文章へ』〈語から文章へ編集委員会〉
- 小松寿雄（2007）「幕末江戸語の一・二人称代名詞」『学苑』八〇二
- 近藤明日子（2013）「近代総合雑誌記事に出現する一人称代名詞の分析—単語情報付き『太陽コーパス』を用いて—」『近代語研究 一七』武蔵野書院
- 園田博文（1997）「明治初期中国語会話書の日本語—『亜細亜言語集』『総訳亜細亜言語集』を中心に—」『文芸研究』一四四
- 園田博文（1998 a）「中国語会話書における助動詞「です」の用法について—明治10年代を中心に—」『国語学研究』三七
- 園田博文（1998 b）「『参訂漢語問答篇国字解』（明治13年刊）に於ける訳語の性格—九州方言との関わり—」『言語科学論集』二
- 園田博文（1999）「日清韓会話書と近代日本語—形容詞丁寧形をめぐる日本語教育の基礎的研究—」『人文学報』〈大韓民国江陵大学校人文科学研究所〉二八
- 園田博文（2002）『語言自邇集（COLLOQUIAL CHINESE）』訳述書の中国語と九州方言—会話中における語の解釈—『佐賀大学留学生センター紀要』一
- 園田博文（2005）「中国語会話書に於ける「へ」と「に」—使い分けについての—考察—」『日本近代語研究 四』ひつじ書房
- 園田博文（2006）「式亭三馬洒落本の江戸語」『国語論究 一二（江戸語研究—式亭三馬と十返舎一九—）』明治書院
- 園田博文（2010）「『日清会話』と『日韓会話』（参謀本部編明治二七年八月刊）—日本語資料としての位置付け—」『近代語研究 一五』武蔵野書院
- 園田博文（2012）「明治28年刊台湾語会話書の植物語彙に関する—考察—」『台湾語集』『台湾言語集』『台湾会話編』『台湾語』を中心に—」『近代語研究 一六』武蔵野書院
- 園田博文（2016）「『官話指南総訳』（明治三八年刊）の日本語—当為表現・ワア行五段動詞連用形の音便・人称代名詞を手がかりに—」『近代語研究 一九』武蔵野書院
- 園田博文（2017 a）「『官話急就篇』『急就篇』訳述書4種の日本語—近代日本語資料としての性質と活用法について—」『山形大学紀要（教育科学）』一六—四
- 園田博文（2017 b）「杉本訳『官話急就篇総訳』（大正5年刊）における質問表現—大橋訳・打田訳・宮島訳との比較を通して—」『山形大学紀要（人文科学）』一八—四
- 園田博文（2017 c）「文求堂主人田中慶太郎訳『東語士商叢談便覧』の日本語—人称代名

詞・当為表現・ワア行五段動詞連用形の音便を例として一」『山形大学
教職・教育実践研究』一二

園田博文（印刷中）「中国語会話書における二重否定形式当為表現「ネバナラヌ類」とその
周辺—明治以降昭和20年までの資料を中心に—」『近代語研究 二〇』武
蔵野書院

田中章夫（2001）『近代日本語の文法と表現』明治書院

常盤智子（2015）『英学会話書の研究』武蔵野書院

六角恒廣（1994）『中国語書誌』不二出版

六角恒廣（2001）『中国語関係書書目（増補版）』不二出版

〈謝辞〉

石崎貴士先生には、英文題名および英文
摘要の作成にあたり、貴重なご指摘をいた
だきました。記して謝意を表します。

Summary

SONODA Hirofumi

A contrastive study of Chinese and Japanese concerning personal pronouns in Hirobe's Japanese Translation of *COLLOQUIAL CHINESE* Published in 1867

This paper is a report on the Chinese and Japanese personal pronouns in Hirobe's Japanese translation of *COLLOQUIAL CHINESE* published in 1867. This paper is also a contrastive study of Chinese and Japanese concerning personal pronouns. There are various forms of personal pronouns written in Kanji and Kana characters in Hirobe's Japanese translation. In this paper I examined them closely about how to pronounce.